

棚田学会通信

第75号 目次 2025年2月1日発行

神戸市の自然共生サイトの棚田	2
自然共生サイト「細尾の棚田、池沼植物群落」～生物多様性最後の砦～	2
愛媛県東温市上林地区の棚田	4
棚田の生物多様性を育む持続可能な里山の役割	5
都市の隙間の棚田～大阪府 穂谷・尊延寺地区～	6
生物多様性の拠点としての棚田	8
事務局ニュース	8



上段左：キョロ口の森の
田んぼでの田植え（新潟）

上段右：尊延寺地区に残る農地
（しかし、周囲には放置された竹林や
工場などが迫る：大阪）

中段左：上林地区の棚田（愛媛）

中段右：棚田・ため池の様子
（神戸の里山林・棚田・ため池：兵庫）

下 段：体験学習で行った田植え
（細尾の棚田、池沼植物群落：兵庫）



棚田は文化的景観の側面からの憲章・認定が多い中、見えにくいものの二次的自然としての生きものの生育・生息空間としての価値もその景観の中にも含まれています。棚田と生物多様性の関りはこれまでも多く論じられてきましたが、近年は地域もしくは国レベルにおいて生物多様性保全のための重要な拠点として、棚田域が地域指定される動きも少なくありません。これらは景観的優美性やそこでの保全活動・地域活性化活動に対するもう一つの軸として、「生育・生息空間としての価値」が一定の基準で公的に評価された棚田と言えます。本号では、その幾つかを紹介し、棚田の生物多様性保全機能について改めて確認したいと思います。

（棚田学会編集委員会）